

カリキュラム改善の方法理論

—理論と実技との融合をめざして—

研究担当者 田 中 萬 年 （職業訓練大学校 調査研究部）

研究協力者 山 口 務 （長崎総合高等職業訓練校）

毛利 敏 和 （長崎総合高等職業訓練校）

西 見 安 則 （長崎総合高等職業訓練校）

竹 下 博 之 （長崎総合高等職業訓練校）

序 文

本資料は訓大調査研究部の田中萬年研究員を中心とした現場指導員諸氏の研究成果である。

公共職業訓練は個人に身を護る武器を与えるものであり、その武器は職業的能力や資格の形で、吾国のいわゆる学歴社会の谷間を歩む労働者に威信を附与するはたらきをもつ。そのためには、公共職業訓練の在り方と共にその内容が問題になる。前者はここでは措くとして、内容の主眼をなすものが“実技と学科の融合”にあることは疑う余地はない。単なる動作だけの熟練が、労働者に威信を与える筈はないからである。

実技と学科の融合はしばしば関係者によって叫ばれてきた。しかし、現実公共職業訓練のカリキュラム編成の理論として纏められたものは本資料が最初であろう。この理論には(1)シーケンス上の工夫を中心とするが故に現場指導員にとって利用しやすいこと、(2)既に現実の訓練校における試行実績をもつと云う点で大きな強味がある。この資料が吾国の公共職業訓練の内容の一層の向上のために、現場指導員諸氏の血肉として活用されることを祈りたい。

本資料は当面公共職業訓練を念頭においている。しかし、事業内訓練あるいは工業高校など、広く職業技術教育一般にも通ずるものがあると思う。直面する課題には所詮同質のものがある筈である。この意味で、これらの御関係者からもこの資料に忌憚ない御意見を戴けるなら著者らにとって喜びは大きいであろうと思う。

昭和51年2月

職業訓練大学校調査研究部長

宗 像 元 介

発行 昭和51年3月1日
再版発行 昭和51年8月11日
発行者 職業訓練大学校

調査研究部長 宗像元介

職業訓練大学校

神奈川県相模原市相原1960
TEL (0427) 61-2111